

### 3. 各障害別の支援例

#### 視覚障害

眼球、視神経または大脳視中枢等の視覚系のいずれかに障害があるために、見ることが不自由または不可能な状態をいいます。視覚障害は大きく「盲」と「弱視」に分類されます。「盲」は視覚的な情報をほとんど得られない状態を指します。「弱視」はルーペなどの支援機器があれば、視覚的な情報を得られる可能性はあります。視野狭窄（視野が欠けていたり狭くなる）や色覚異常（色の区別ができなかったり、特定の色が見づらい）がある場合もあり、見え方は人によって様々です。

主な困難	支援例
教科書、プリント、スライド、板書等の読み取りが難しい。	<ul style="list-style-type: none"><li>資料をテキストデータで提供する。（音声読み上げソフト等で読み込むため）</li><li>ルーペなどの支援機器の持込許可</li><li>録音の許可</li><li>資料の拡大</li><li>試験問題、解答用紙の拡大</li></ul>
筆記形式の課題に取り組むことが難しい	<ul style="list-style-type: none"><li>用紙等の拡大</li><li>提出形式の変更（電子ファイル等）</li></ul>
試験の回答に時間がかかる	<ul style="list-style-type: none"><li>別室受験</li><li>試験時間の延長</li></ul>
慣れない場所での移動が難しい	<ul style="list-style-type: none"><li>移動介助者の配置</li><li>移動に時間がかかることへの配慮</li></ul>
視覚情報を基とする表現や指示語（これ、それ等）がわからない	<ul style="list-style-type: none"><li>指示語の使用を極力避ける。</li><li>事前に資料を提示し、具体的なことばで説明する。</li></ul>